

旧鈴木保育園、小川保育園、萩山公園プール管理棟、小平第一小学校校舎及び体育館、
小平第五小学校体育館、小平第五中学校校舎及び体育館、小平第六中学校校舎及び体育館
に関する更新等について

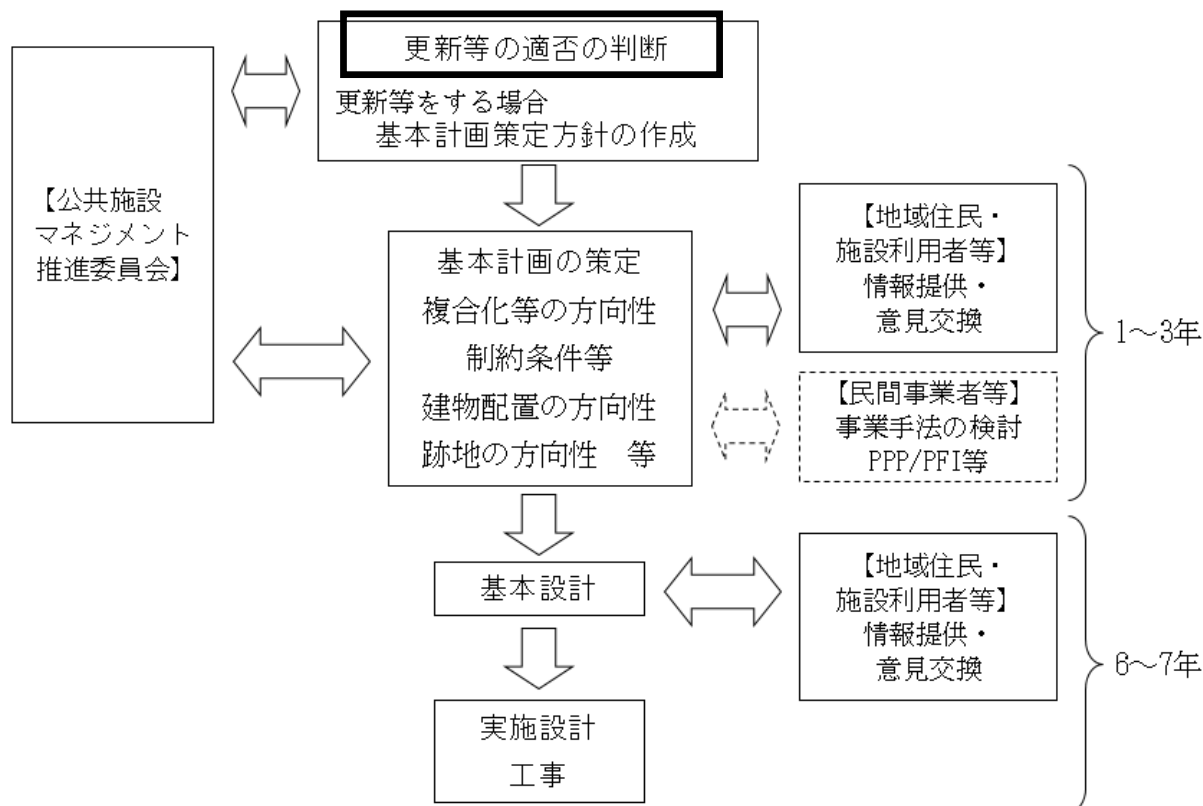
(令和6年1月29日決定)

1 背景及び位置づけ

2015（平成27）年2月に「小平市公共施設白書」を発行し、同年12月に「小平市公共施設マネジメント基本方針」を策定しました。白書で示した将来的な大きな3つの課題（「人口減少・少子高齢化」、「財政バランスの悪化」、「施設の老朽化・更新時期の集中」）に対応するため、基本方針では市制施行100周年を迎える2062（令和44）年度を見据え、「いつまでもわくわくする場をみんなで創ろう」という基本理念と4つの方針（「魅力あるサービスの実現」、「持続可能な施設総量」、「コストの縮減と平準化」、「長く活用できる施設」）を定めました。

また、基本方針に沿った取組の推進に向けた方策を示した「小平市公共施設マネジメント推進計画」（2022（令和4）年3月改定）では、計画期間中に目標耐用年数を迎える施設の更新等に向けた「基本的な検討手順」を示しています。

この「基本的な検討手順」に沿い、旧鈴木保育園、小川保育園、萩山公園プール管理棟、小平第一小学校校舎及び体育館、小平第五小学校体育館、小平第五中学校校舎及び体育館、小平第六中学校校舎及び体育館に関する更新等の適否の判断をします。



小平市公共施設マネジメント推進計画より抜粋

2 対象施設の概要

(1) 旧鈴木保育園

①所在地	鈴木町二丁目219番地
②用途地域（建ぺい率・容積率）	第一種低層住居専用地域（40％・80％）
③土地面積	1,285.05㎡
④土地の所有形態	市有地
⑤建築年または改築年	1969年（昭和44年）
⑥構造	鉄筋コンクリート造
⑦建築面積（建ぺい率）	505.00㎡（39.29％）
⑧延床面積（容積率）	686.76㎡（53.44％）
⑨階層	地上2階
⑩構成（部屋名）	旧保育室、旧ホール等
⑪経過年数、目標耐用年数（到来年）	55年経過、60年（2028年）
⑫現行耐震基準	適合
⑬避難所指定	—
⑭設置目的	災害時に備え、アルミマットなど避難所運営に必要な資機材などを備蓄する
⑮サービス内容	災害時における必要な資機材の提供
⑯同分類（類似）施設	【施設分類】消防施設（行政系施設） 【同分類（類似）施設】消防団分団詰所、防災倉庫

(2) 小川保育園

①所在地	小川町一丁目983番地
②用途地域（建ぺい率・容積率）	第一種低層住居専用地域（40％・80％）
③土地面積	1,544.69㎡
④土地の所有形態	市有地
⑤建築年または改築年	1970年（昭和45年）
⑥構造	鉄筋コンクリート造
⑦建築面積（建ぺい率）	600.54㎡（38.87％）
⑧延床面積（容積率）	720.22㎡（46.62％）
⑨階層	地上2階
⑩構成（部屋名）	保育室、ホール、事務室、給食室等
⑪経過年数、目標耐用年数（到来年）	54年経過、60年（2029年）
⑫現行耐震基準	適合
⑬避難所指定	—
⑭設置目的	保育を必要とする乳幼児を市立保育園で保育し、乳幼児の健全な育成を図ることを目的とする
⑮サービス内容	保育園事業（その他の保育サービスとして延長保育、緊急一時保育実施）
⑯同分類（類似）施設	【施設分類】幼児教育・保育施設（子育て支援施設） 【同分類（類似）施設】保育園

(3) 萩山公園プール管理棟

①所在地	小川東町四丁目4番1号
②用途地域（建ぺい率・容積率）	第一種中高層住居専用地域（60%・200%）
③土地面積	3,404.00㎡（萩山公園プール全体）
④土地の所有形態	借地（国）
⑤建築年または改築年	1971年（昭和46年）
⑥構造	鉄筋コンクリート造
⑦建築面積（建ぺい率）	不明
⑧延床面積（容積率）	815.62㎡（23.96%）
⑨階層	地上2階
⑩構成（部屋名）	更衣室、事務室兼監視室、医療室、休憩室、会議室等
⑪経過年数、目標耐用年数（到来年）	53年経過、60年（2030年）
⑫現行耐震基準	不明（未調査）
⑬避難所指定	—
⑭設置目的	（プール）利用者が快適かつ安全に利用できる施設環境を確保し、市民の体育、スポーツの振興を図る
⑮サービス内容	（プール）市民の体育、スポーツ、レクリエーションその他の社会体育の振興と健康で文化的な市民生活の向上の場を提供する
⑯同分類（類似）施設	【施設分類】スポーツ施設 （スポーツ・レクリエーション系施設） 【同分類（類似）施設】総合体育館、テニスコート、グラウンド、プール等

(4) 小平第一小学校

①所在地	小川町一丁目1082番地
②用途地域（建ぺい率・容積率）	第一種低層住居専用地域（40%・80%）
③土地面積	14,154.29㎡
④土地の所有形態	市有地
⑤建築年または改築年	校舎 1971年（昭和46年） 体育館 1973年（昭和48年）
⑥構造	校舎 鉄筋コンクリート造 体育館 鉄筋コンクリート造、一部重量鉄骨造
⑦建築面積（建ぺい率）	校舎 2,554.96㎡（18.05%） 体育館 730.00㎡（5.15%）
⑧延床面積（容積率）	校舎 6,370.71㎡（45.00%） 体育館 843.19㎡（5.95%）
⑨階層	校舎 地上3階 体育館 地上2階
⑩構成（部屋名）	校舎 普通教室、特別教室、職員室、給食室、プール等 体育館 体育アリーナ、ステージ、放送室等
⑪経過年数、目標耐用年数（到来年）	校舎 53年経過、60年（2030年） 体育館 51年経過、60年（2032年）
⑫現行耐震基準	適合
⑬避難所指定	校舎（一部）・体育館 避難所 校庭 いっとき避難場所
⑭設置目的	心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す
⑮サービス内容	普通教育
⑯同分類（類似）施設	【施設分類】学校（学校教育系施設） 【同分類（類似）施設】小学校、中学校

(5) 小平第五小学校 (体育館)

①所在地	花小金井六丁目24番1号
②用途地域 (建ぺい率・容積率)	第一種中高層住居専用地域 (50%・100%)
③土地面積	14,125.27㎡
④土地の所有形態	市有地
⑤建築年または改築年	1970年 (昭和45年)
⑥構造	鉄筋コンクリート造、一部重量鉄骨造
⑦建築面積 (建ぺい率)	703.82㎡ (4.98%)
⑧延床面積 (容積率)	684.48㎡ (4.84%)
⑨階層	地上2階
⑩構成 (部屋名)	体育アリーナ、ステージ、放送室等
⑪経過年数、目標耐用年数 (到来年)	54年経過、60年 (2029年)
⑫現行耐震基準	適合
⑬避難所指定	避難所
⑭設置目的	(小学校) 心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す
⑮サービス内容	(小学校) 普通教育
⑯同分類 (類似) 施設	【施設分類】 学校 (学校教育系施設) 【同分類 (類似) 施設】 小学校、中学校

(6) 小平第五中学校

①所在地	小川町一丁目798番地
②用途地域 (建ぺい率・容積率)	第一種中高層住居専用地域 (60%・200%)
③土地面積	16,397.05㎡
④土地の所有形態	市有地
⑤建築年または改築年	校舎 1971年 (昭和46年) 体育館 1972年 (昭和47年)
⑥構造	校舎 鉄筋コンクリート造 体育館 鉄筋コンクリート造、一部重量鉄骨造
⑦建築面積 (建ぺい率)	校舎 2,494.51㎡ (15.21%) 体育館 813.31㎡ (4.96%)
⑧延床面積 (容積率)	校舎 6,980.91㎡ (42.57%) 体育館 789.95㎡ (4.81%)
⑨階層	校舎 地上4階 体育館 地上2階
⑩構成 (部屋名)	校舎 普通教室、特別教室、職員室、プール等 体育館 体育アリーナ、ステージ、放送室等
⑪経過年数、目標耐用年数 (到来年)	校舎 53年経過、60年 (2030年) 体育館 52年経過、60年 (2031年)
⑫現行耐震基準	適合
⑬避難所指定	校舎 (一部)・体育館 避難所 校庭 いつでも避難場所
⑭設置目的	小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施す
⑮サービス内容	普通教育
⑯同分類 (類似) 施設	【施設分類】 学校 (学校教育系施設) 【同分類 (類似) 施設】 小学校、中学校

(7) 小平第六中学校

①所在地	大沼町六丁目4番1号
②用途地域（建ぺい率・容積率）	第一種低層住居専用地域（40％・80％）
③土地面積	16,887.92㎡
④土地の所有形態	市有地
⑤建築年または改築年	校舎 1971年（昭和46年） 体育館 1972年（昭和47年）
⑥構造	校舎 鉄筋コンクリート造 体育館 鉄筋コンクリート造、一部重量鉄骨造
⑦建築面積（建ぺい率）	校舎 3,305.33㎡（19.57％） 体育館 813.00㎡（4.81％）
⑧延床面積（容積率）	校舎 7,700.86㎡（45.59％） 体育館 789.95㎡（4.67％）
⑨階層	校舎 地上4階 体育館 地上2階
⑩構成（部屋名）	校舎 普通教室、特別教室、職員室、プール等 体育館 体育アリーナ、ステージ、放送室等
⑪経過年数、目標耐用年数（到来年）	校舎 53年経過、60年（2030年） 体育館 52年経過、60年（2031年）
⑫現行耐震基準	適合
⑬避難所指定	校舎（一部）・体育館 避難所 校庭 いつでも避難場所
⑭設置目的	小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施す
⑮サービス内容	普通教育
⑯同分類（類似）施設	【施設分類】学校（学校教育系施設） 【同分類（類似）施設】小学校、中学校

3 更新等の適否の判断

(1) 旧鈴木保育園

鈴木保育園は、「小平市立鈴木保育園の私立保育園への移行ガイドライン（平成24年3月）」に基づき、2016（平成28）年3月で閉園予定であったことから、2015（平成27）年度に跡地利用の検討を行いました。

その結果、園舎は、計画的に追加購入を行っている被災者用備蓄品等の保管場所として暫定的に活用することとし、園庭は小平市立公園条例に規定する公園（都市公園）として整備しました。

① 建物の状況

本施設は保管場所として暫定的な活用であり、不特定多数の市民が利用する施設ではないことから、劣化診断調査は実施していません。

2009（平成21）年に実施した耐震診断結果から耐震補強工事は不要です。

② 更新等の適否の判断

園舎については、今後、被災者用備蓄品を小・中学校の更新に合わせて分散配置していくことや、旧鈴木保育園の跡地利用として暫定的に活用している経緯から、「更新等を行わない」ものとし、施設を解体した上で、跡地について、市における活用や、民間への貸付・売却を検討しま

す。

なお、旧園庭に整備した鈴木町にこにこ公園は存置します。

被災者用備蓄品については、小・中学校の更新に合わせて約50㎡の保管スペースを建物内に確保する方向性とし、当面の間の不足分については、小川一丁目防災倉庫の延長利用と他の施設の併用を検討します。このため、目標耐用年数到来年は2028（令和10）年ですが、本施設は不特定多数の市民が利用する施設ではないことから、他の防災倉庫の整備状況を踏まえ、2033（令和15）年を目途に解体する予定とします。

また、一部民具を保管していることから、当該民具に加え、中央エリアの整備に伴い解体予定の第一民具庫、第二民具庫及び第三民具庫の移転先をあわせて検討します。

(2) 小川保育園

小川保育園は公立保育園で5番目に歴史があり、小川公民館との複合施設として開設しました。なお、小川公民館は1996（平成8）年度に機能移転し、現在は跡スペースを行政財産の使用許可により障がい者団体等が利用しています。

① 「公立保育園の運営のあり方に関する方針」（令和元年度改定）での小川保育園の位置づけ

2010（平成22）年度に策定した「公立保育園の運営のあり方に関する方針」を2019（令和元）年度に見直し、「小川保育園周辺の就学前児童数は減少しているものの、2015（平成27）年国勢調査による小平市町丁別将来人口と比較すると減少数が緩やかなため、現時点で判断するのではなく、小平市公共施設マネジメント推進計画の更新等の適否の判断を行う2023（令和5）年の園周辺の就学前児童数や待機児童数の状況などを考慮し、私立保育園への移行などを判断します。この検討の際には、西地域全体（注）の保育ニーズ及び人口減少なども考慮し、目標耐用年数到来年が2035（令和17）年となっている上宿保育園との統合による再配置及び建替えなども含めて検討します。」としています。

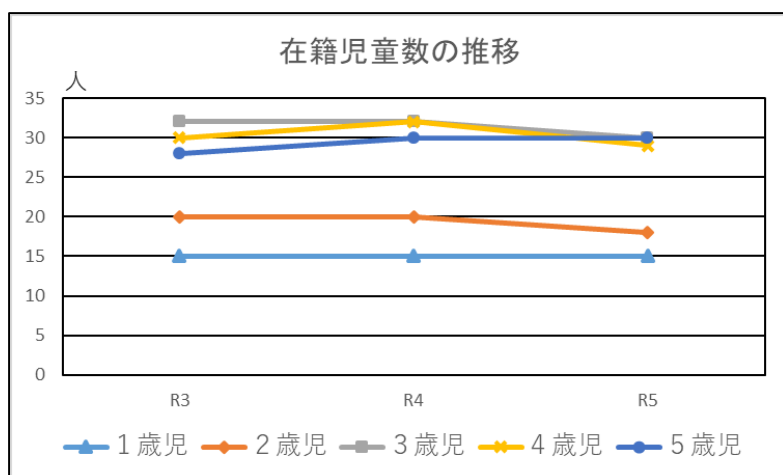
（注）…中島町、上水新町一丁目から三丁目、たかの台、小川町一丁目、栄町一丁目から三丁目、小川西町一丁目から五丁目、小川東町一丁目から五丁目、上水本町一丁目・二丁目、津田町一丁目から三丁目

② 在籍児童数の推移

待機児童数の多い1歳児は、定員数を上回る在籍児童数があります。

在籍児童数	令和3年	令和4年	令和5年	定員数
1歳児	15人	15人	15人	12人
2歳児	20人	20人	18人	18人
3歳児	32人	32人	30人	30人
4歳児	30人	32人	29人	30人
5歳児	28人	30人	30人	30人
合計	125人	129人	122人	120人

※各年4月1日現在



③ 西地域の教育・保育定員数 (単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳から5歳児	合計
令和5年4月	107	191	214	1,720	2,232
令和6年4月	107	203	226	1,780	2,316

※ 令和6年4月に従来型幼稚園1園が認定こども園に移行。

④ 西地域の待機児童数 (単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
令和2年4月	1	17	7	1	0	26
令和3年4月	0	8	5	0	0	13
令和4年4月	0	3	0	0	0	3
令和5年4月	0	0	0	0	0	0

⑤ 建物の状況

2021（令和3）年 劣化診断調査実施

目標耐用年数は80年以上と推定されます。

なお、2010（平成22）年に実施した耐震診断結果から耐震補強工事は不要です。

⑥ 更新等の適否の判断

2019（令和元）年度に見直した「公立保育園の運営のあり方に関する方針」では、小川保育園については、2023（令和5）年度の西地域全体の保育ニーズ及び人口減少なども考慮し、目標耐用年数到来年が2035（令和17）年となっている上宿保育園との統合による再配置及び建替えなども含めて私立保育園への移行などを判断することとしています。

西地域の就学前児童数はコロナ禍の影響等から減少傾向が続いており、2020（令和2）年4月に26人だった待機児童数は、2023（令和5）年4月に0人となりました。しかしながら、コロナ禍からの揺り戻しや大規模マンション開発等を踏まえると、5～7年後に就学前児童数の増加が見込まれます。また、0～2歳児の保育園新規申込者数（以下「保育ニーズ」という。）は、共働き世帯の増加等により高止まりが見込まれます。

西地域の教育・保育定員数は、2024（令和6）年4月に従来型幼稚園の認定こども園への移行により拡充を予定していますが、5～7年後に向けては、少なくとも現状維持が必要となり

ます。

以上を踏まえ、劣化診断の結果は、健全な状態を保っていることから、「更新等を行わない」ものとし、必要な修繕を行いながら機能を維持して、当面の間は現行の運営を継続します。

今後、西地域全体の就学前児童数及び保育ニーズを注視し、大規模マンション開発等の動向も踏まえ、近隣の上宿保育園との統合や私立保育園への移行なども含めて検討します。

(3) 萩山公園プール管理棟

市営プールは、小平市の中央を走る西武多摩湖線を境に、東側に東部公園プール（屋外）、中央に萩山公園プール（屋外）、西側に市民総合体育館プール（屋内）があります。萩山公園プールは1971（昭和46）年に利用開始しました。

萩山公園プールの施設の劣化等は深刻な状況にあり、西側プールサイドの点検口の周囲で、床下の土が流出した深さ2m程度の空洞が発見されたことから、プール水槽及びプールサイドにおける陥没、損傷状況等について状況把握し、その後の施設のあり方を検討する際の判断材料とするため、2021（令和3）年度に調査を実施しました。本調査により、構造安全上または耐久性の面での問題が確認されたことから、萩山公園プール開放を当面の間中止しました。

萩山公園プール管理棟は、萩山公園プールの更衣室、事務室兼監視室、医療室、休憩室等の利用の他に、市民スポーツの振興を図ることを目的に、小平市立体育施設条例により、夏季プール開催期間外（注）は、卓球室として開放しています。

（注）…プールについて、前述のとおり令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点や施設の損傷の影響から、一般開放の中止が続いています。

① 「東部公園プール再整備・萩山公園プール跡地活用に関する基本的な考え方」（令和5年5月）

「萩山・東部公園プール一般開放及び維持管理事業」は、小平市第1期経営方針推進プログラムのNo.8「事業の精査と見直し」の対象となり、小平市経営方針推進委員会による仕分け提案の中で「縮小」の判定が出されました。これを受け、2022（令和4）年度から、市営屋外プールのあり方について検討を進めてきました。

検討にあたっては、「縮小」に向けた方策として、二つの屋外プールを一つに集約するとともに、天候や季節に左右されず利用できるよう屋内化することで市民サービスの向上につなげることを目指しました。屋内化することでコスト増となることについては、公民連携手法の導入によるコスト検証や近隣小学校の水泳授業での利用によるコスト検証も行い、全体として「縮小」の結論を導きました。

前述の検討をもとに、公民連携手法により東部公園プールを屋内温水プールとして再整備し、プール機能を集約する方向で進めていく予定とし、萩山公園プールについては、プール解体後の跡地活用について検討を進めることとしました。

萩山公園プール解体後の跡地活用では、萩山公園が国有地であることや、近隣に病院があることなどから、整備内容が限定されることを想定したうえで、関係機関との調整なども踏まえ、可能な範囲で健康増進やスポーツニーズに対応する機能の整備を検討していくとしています。

また、萩山公園プール跡地活用の考え方において、跡地活用の前提として、公園施設の設置にあたっては、施設総量の縮減や持続可能な行財政運営といった観点から屋外施設として活用

することとし、考えられる方向性として、比較的簡素な屋外設備等による「運動施設」や、「園路及び広場」とベンチ・野外卓などによる「休養施設」を主として構成することが、有力に考えられるとしています。

② 建物の状況

2020(令和2)年度 劣化診断調査実施

目標耐用年数は80年以上と推定されます。

③ 更新等の適否の判断

「東部公園プール再整備・萩山公園プール跡地活用に関する基本的な考え方」を前提として、将来的な萩山公園プールの解体に伴い、萩山公園プール管理棟の更衣室、事務室兼監視室、医療室、休憩室等の機能の役割も終了します。

以上のことから、萩山公園プール管理棟は「更新等を行わない」ものとし、解体の方向で検討します。解体時期については、東部公園プール再整備・萩山公園プール跡地活用事業(以下、「跡地活用事業」という。)の進捗に合わせるものとします。

跡地活用事業において、萩山公園プール跡地に、サッカーや野球、テニスコートなどボールを使用できる施設やランニングコースなどの比較的簡素な屋外設備等による「運動施設」が整備された場合には、その必要性に応じて、公共施設マネジメント推進計画を踏まえ、現施設の延べ床面積を10分の1程度に縮減したうえで、管理棟(事務所棟)の新設を検討します。その際は、引き続き市民スポーツの振興を図ることを目的に、これまでの利用状況や今後の需要等を見極めながら検討します。

なお、萩山公園プールの敷地は、国有財産法に基づく無償貸付により、用途指定等の制約があります。また、都市計画公園内であること、第一種中高層住居専用地域であること、その他にも建築基準法や都市公園法による規制の対象となります。以上のことを考慮して、関係機関と協議を行い、管理棟(事務所棟)の新設を含めて他の施設への用途変更が可能か、建築可能な施設について検討します。

(4) 小平第一小学校

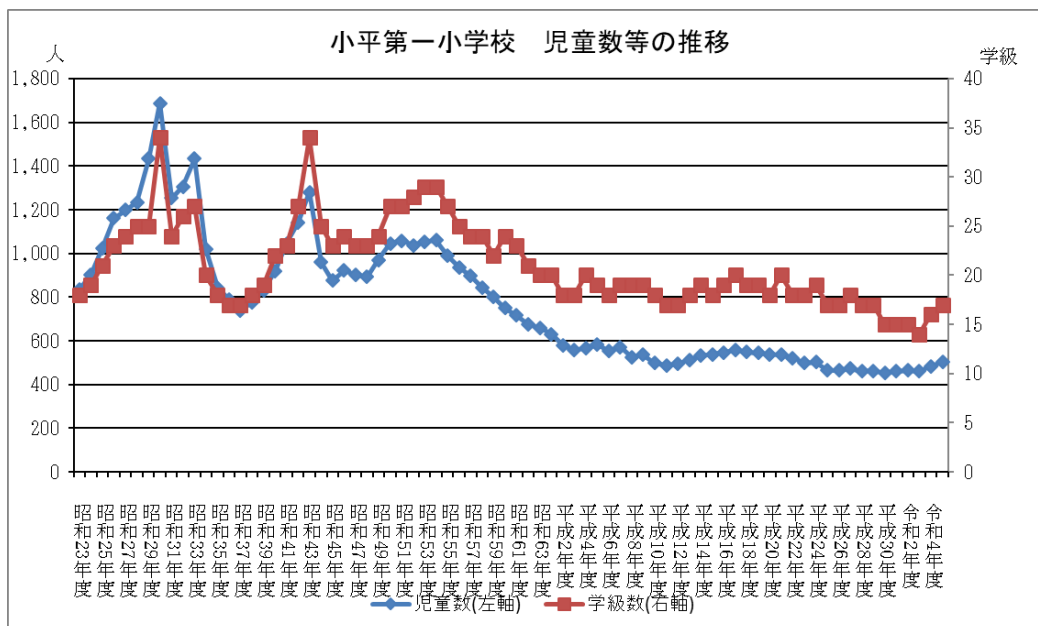
小平第一小学校は、1873(明治6)年に創設され、2023(令和5)年に、創立150周年を迎えました。

校舎は、1966(昭和41)年から1975(昭和50)年にかかる建設により、現在の校舎形状となりました。体育館は、1973(昭和48)年に建設しています。

① 児童数の推移

児童数は1955(昭和30)年度に1,688人まで増加しましたが、1956(昭和31)年度に小平第四小学校、1960(昭和35)年度に小平第六小学校、1968(昭和43)年度に小平第十二小学校がそれぞれ分校として開校したこともあり、1970(昭和45)年度に876人となりました。その後、1979(昭和54)年度に1,061人を記録したのち、概ね減少傾向でしたが、2018(平成30)年度以降は増加傾向となり、2023(令和5)年

度は503人となっています。



② コミュニティの状況

小平第一小学校地域は、地域住民等のボランティア、放課後子ども教室、青少年対策地区委員会などにより、地域学校協働活動が行われています。2023（令和5）年度には学校経営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとなっています。

③ 建物の状況

- 2006（平成18）年 校舎及び体育館耐震補強工事実施
 - 2021（令和3）年 劣化診断調査実施
- 目標耐用年数は80年以上と推定されます。

④ 更新等の適否の判断

今後の児童数の見通しとして、新たな推計（小平市人口推計報告書補足版（令和元年8月））による町丁別将来人口では、主な通学区域となる小川町一丁目、たかの台、上水新町二丁目、上水新町三丁目、津田町一丁目における5歳から14歳までの人口の合計は、短期的には増加するものの、数年後には減少する見込みとなっています。

劣化診断の結果は、校舎・体育館ともに健全な状態を保っています。

将来的な統合の可能性については、「小平市公共施設マネジメント推進計画（令和4年3月改定）」において、他の小学校との統合の可能性は示していません。

以上を踏まえ、小平第一小学校は、数年後に児童数が減少する見込みですが、劣化診断の結果により、校舎及び体育館の状態は健全であることから、「更新等を行わない」ものとします。

教育環境の水準を保ちながら、当面の間は機能を維持し、校舎の目標耐用年数の推定を踏まえ、校舎の目標耐用年数到来年の2030年からおおむね20年程度継続して使用することとします。それまでの間は、安全に使用するため適切な時期に、防水や外壁などの改修を検討します。

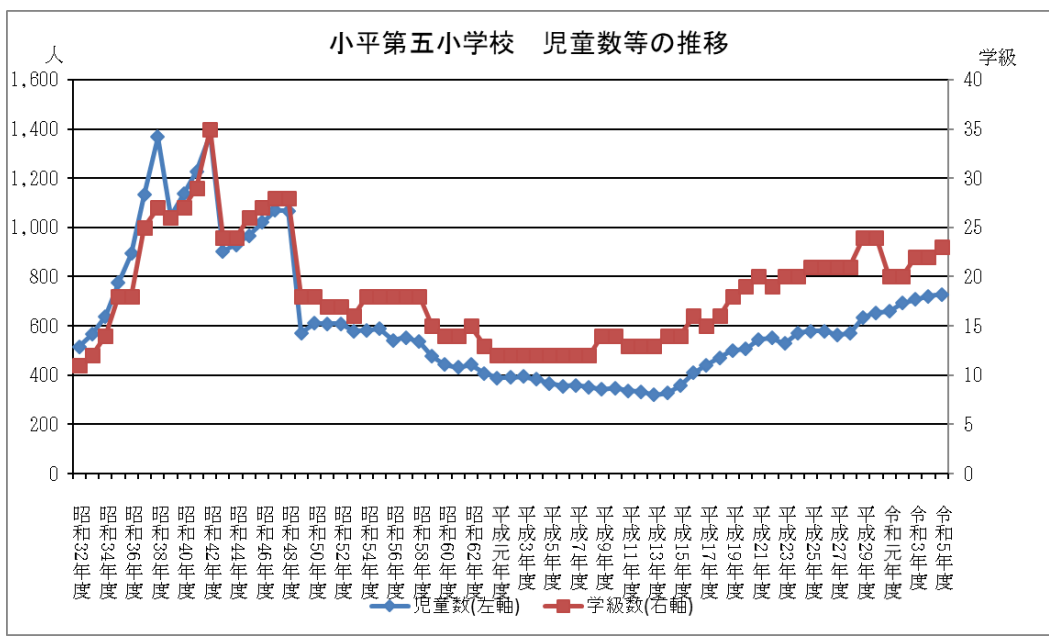
(5) 小平第五小学校（体育館）

小平第五小学校は、1957（昭和32）年に開校し、2022（令和4）年に、創立65周年を迎えました。

校舎は、1983（昭和58）年に鉄筋コンクリート造の校舎へ建て替えを行い、2007（平成19）年と2019（平成31）年に増築を行って現在の校舎形状となりました。体育館は、1970（昭和45）年に建設しています。

① 児童数の推移

児童数は、開校当時は515人で、1963（昭和38）年度に1,367人まで増加しましたが、同年に小平第八小学校、1967（昭和42）年度に小平第十一小学校、1973（昭和48）年度に花小金井小学校がそれぞれ分校として開校したこともあり、2001（平成13）年度に319人まで減少しました。その後増加に転じ、2023（令和5）年度は728人となっています。



② コミュニティの状況

小平第五小学校地域は、地域住民等のボランティア、放課後子ども教室、青少年対策地区委員会などにより、地域学校協働活動が行われています。2019（令和2）年度には学校経営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとなっています。

③ 建物の状況

2021（令和3）年 劣化診断調査実施

目標耐用年数は80年以上と推定されます。

なお、校舎は新耐震基準であり、体育館は2005（平成17）年に実施した耐震診断の結果から共に耐震補強工事は不要です。

④ 更新等の適否の判断

今後の児童数の見通しとして、新たな推計（小平市人口推計報告書補足版（令和元年8月））による町丁別将来人口では、主な通学区域となる花小金井一丁目、花小金井六丁目、花小金井七丁目、鈴木町二丁目、花小金井南町一丁目、花小金井南町二丁目における5歳から14歳までの人口の合計は、短期的には増加し、10年～15年後には減少する見込みとなっています。

劣化診断の結果は、校舎・体育館ともに健全な状態を保っています。

将来的な統合の可能性については、「小平市公共施設マネジメント推進計画（令和4年3月改定）」において、他の小学校との統合の可能性は示していません。

以上を踏まえ、小平第五小学校は、劣化診断の結果により、校舎及び体育館の状態は健全であること、児童数の減少が10年～15年後と見込まれること、また体育館の単独更新による教育環境への影響を踏まえ、「更新等を行わない」ものとします。

教育環境の水準を保ちながら、当面の間は機能を維持し、体育館の目標耐用年数の推定を踏まえ、体育館の目標耐用年数到来年の2029年からおおむね20年程度継続して使用することを基本としますが、将来的な校舎に関する更新等の適否の判断状況（校舎の目標耐用年数到来年2042年）に応じて、体育館の対応もあわせて検討します。それまでの間は、安全に使用するため適切な時期に、防水や外壁などの改修を検討します。

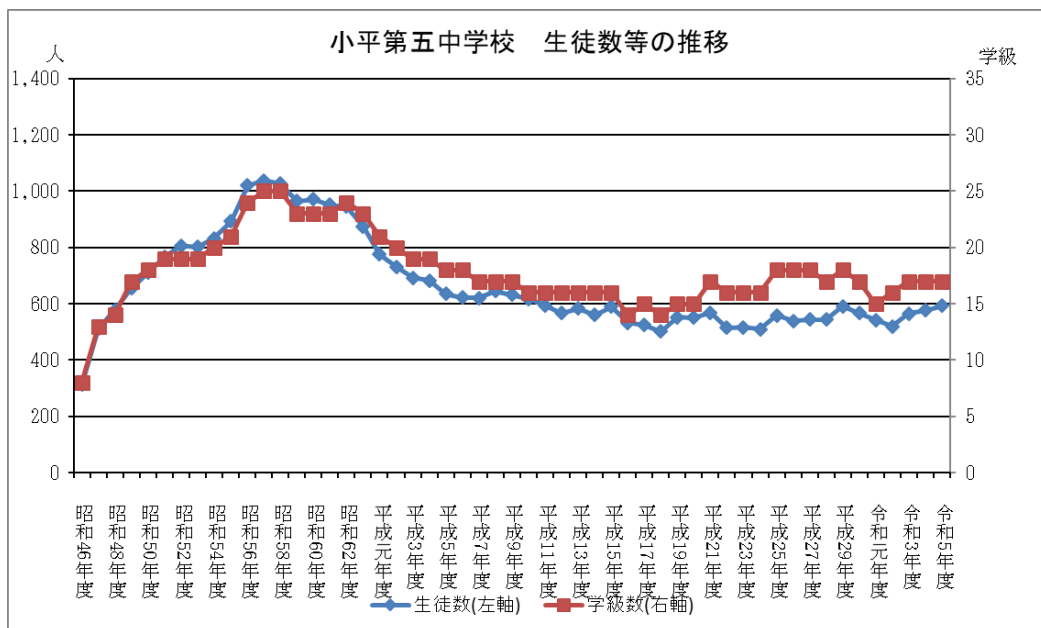
(6) 小平第五中学校

小平第五中学校は、小平第二中学校の分校として1971（昭和46）年に開校し、2021（令和3）年に、創立50周年を迎えました。

校舎は、1971（昭和46）年から1980（昭和55）年にかかる建設により、現在の校舎形状となりました。体育館は、1972（昭和47）年に建設しています。

① 生徒数の推移

生徒数は、開校当時は313人で、1982（昭和57）年度には1,039人まで増加しましたが、1999（平成18）年度に501人まで減少しました。その後は微増傾向であり、2023（令和5）年度は593人となっています。



② 建物の状況

2004（平成16）年 校舎及び体育館耐震補強工事実施

2022（令和4）年 劣化診断調査実施

目標耐用年数は80年以上と推定されます。

③ 更新等の適否の判断

今後の生徒数の見通しとして、新たな推計（小平市人口推計報告書補足版（令和元年8月））による町丁別将来人口では、主な通学区域となる中島町、小川町一丁目、上水新町一丁目～三丁目、たかの台、津田町一丁目、栄町一丁目における10歳から14歳までの人口の合計は、短期的には増加し、10年～15年後には減少する見込みとなっています。

劣化診断の結果は、校舎・体育館ともに健全な状態を保っています。

将来的な統合の可能性については、「小平市公共施設マネジメント推進計画（令和4年3月改定）」において、他の中学校との統合の可能性は示していません。

以上を踏まえ、小平第五中学校は、劣化診断の結果により、校舎及び体育館の状態は健全であること、生徒数の減少が10年～15年後と見込まれることから、「更新等を行わない」ものとします。

教育環境の水準を保ちながら、当面の間は機能を維持し、校舎の目標耐用年数の推定を踏まえ、校舎の目標耐用年数到来年の2030年からおおむね20年程度継続して使用することとします。小平第五中学校は、他の中学校との統合や公共施設との複合化を想定していないため、将来的には、その時点での生徒数に応じた規模での単独更新を検討します。それまでの間は、安全に使用するため適切な時期に、防水や外壁などの改修を検討します。

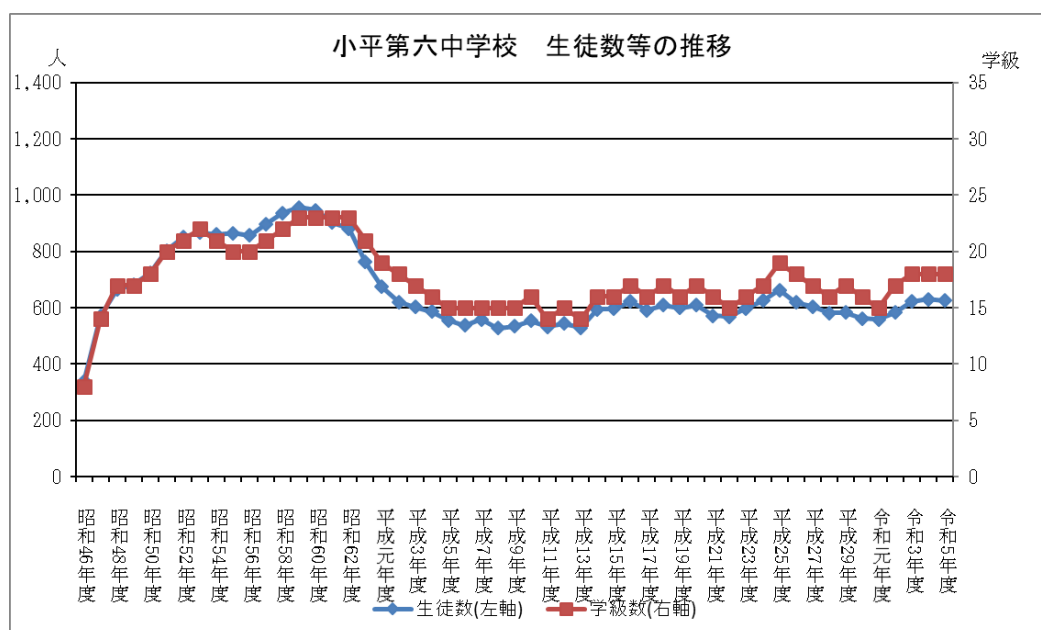
(7) 小平第六中学校

小平第六中学校は、1971（昭和46）年に開校し、2021（令和3）年に、創立50周年を迎えました。

校舎は、1971（昭和46）年から1982（昭和57）年にかかる建設により、現在の校舎形状となりました。体育館は、1972（昭和47）年に建設し、1982（昭和57）年に倉庫部分を増築しています。

① 生徒数の推移

生徒数は、開校当時は338人で、1984（昭和59）年度には956人まで増加しましたが、1996（平成8）年度に527人まで減少しました。その後は微増傾向となり、2023（令和5）年度には626人となっています。



② 建物の状況

2005（平成17）年～2006（平成18）年 校舎耐震補強工事实施

2006（平成18）年 体育館耐震補強工事实施

2022（令和4）年 劣化診断調査実施

鉄筋に顕著な腐食は見られないため、現状では安全性を脅かすような状態ではありませんが、更新等を考える時期に来ていることがうかがわれます。校舎の目標耐用年数は60年から80年以上、体育館は70年程度と推定されます。

③ 更新等の適否の判断

今後の生徒数の見通しとして、新たな推計（小平市人口推計報告書補足版（令和元年8月））による町丁別将来人口では、主な通学区域となる花小金井二丁目～五丁目、花小金井八丁目、大沼町一丁目～七丁目、天神町二丁目、天神町三丁目、美園町一丁目～三丁目における10歳から14歳までの人口の合計は、短期的には増加し、10年～15年後には減少する見込みとなっています。

劣化診断の結果、耐震補強工事により安全性は確保されているものの、校舎については、新耐震基準である南校舎Ⅲ期を除いて、コンクリート圧縮強度が一般的に長寿命化は適さないと判定される $13.5\text{N}/\text{mm}^2$ を下回る数値となったことから、建替えの対象として検討する必要があります。（注）

将来的な統合の可能性については、「小平市公共施設マネジメント推進計画（令和4年3月改定）」において、他の中学校との統合の可能性は示していません。

以上を踏まえ、小平第六中学校は、生徒数の減少が10年～15年後と見込まれますが、劣化診断の結果により、多くの校舎が長寿命化に適さない状況であることから、「更新等を行う」ものとしします。

（注）…文部科学省「学校施設の長寿命化改修の手引」（平成26年1月）及び「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（平成29年3月）では、コンクリート圧縮強度 $13.5\text{N}/\text{mm}^2$ を上回る場合は長寿命化が可能と判定し、それ以外の建物は建替えと判定しています。

④ 基本計画策定に向けて

小平第六中学校の基本計画の策定にあたっては、学校の更新時期の一定の分散を図るため、令和8年度に予定している公共施設マネジメント推進計画の改定に合わせて、計画策定の着手時期を検討します。

基本計画策定方針については、策定の着手時期に合わせて作成し、策定スケジュール等の整理を行います。

その後の基本計画の策定については、公共施設マネジメント推進計画の「基本的な検討手順」に基づき、進めます。

小平第六中学校は、他の中学校との統合や公共施設との複合化を想定していないため、単独更新を検討します。